

第26回
FDフォーラム
報告集

第8分科会

ICT を活用した遠隔授業について考える

報告者

坂本 尚志 氏 京都薬科大学 一般教育分野 准教授

阿部 一晴 氏 京都光華女子大学 キャリア形成学部 教授

瀧本 真人 氏 龍谷大学 国際学部 教授

コーディネーター

小田 真隆 氏 京都薬科大学 生命薬科学系 教授

- P 1～ 講演 1. オンライン授業におけるLMSの活用
主体的な学びをどうデザインするか？
坂本 尚志 氏
- P18～ 講演 2. 突然降って湧いた遠隔授業の取り組み 阿部 一晴 氏
- P33～ 講演 3. コロナ禍におけるオンライン授業の導入とその課題：
ある学科の取り組みをケーススタディとして考えてみる
瀧本 真人 氏

オンライン授業におけるLMSの活用 主体的な学びをどうデザインするか？

2021年2月28日 大学コンソーシアム京都FDフォーラム

坂本 尚志（京都薬科大学一般教育分野准教授）

坂本 尚志（さかもと たかし）

- ボルドー第三大学大学院哲学科修了。博士（哲学）
- 専門：20世紀フランス思想史、哲学教育研究
- ボルドー第三大学外国語・応用外国語学部日本学科
教員（2003-2011年）
- 京都大学高等教育研究開発推進センター教員
（2011-2013年）
- 京都薬科大学一般教育分野教員（2013年～）

最近の仕事

伊藤実歩子編『変動する大学入試—資格か
選抜か ヨーロッパと日本』（大修館書店、
2020年）

フランスの高校教育・バカロレア改革と
エリート教育に関する2章を執筆

（2020年11月14日朝日新聞読書面に書評
掲載）



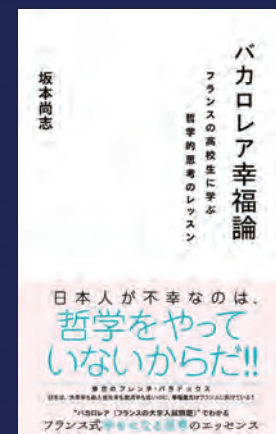
最近の仕事

『バカロレア幸福論—フランスの高校生に
学ぶ哲学的思考のレッスン』（星海社新書、
2018年）

バカロレア哲学試験とフランスのリセ
（高等学校）の哲学教育の内容を紹介

毎日新聞読書欄「2018この3冊」（選者：
鹿島茂）に選ばれる

朝日新聞「折々のことば」掲載（2019年3
月22日）



今日のお話の目的

- オンライン授業での私のLMS使用例の紹介
- LMSありきではなく、教育目的の達成のために、どのような授業をデザインすべきかという問題意識が出发点
- 具体的にこの機能をこう使ってというハウツーではなく、期待される効果を生み出し、目的達成するツールとして、LMSがどう介在したかを紹介

京都薬科大学について

- 1884年 京都私立独逸学校として創立（後に別科として薬学科開設）
- 1949年 学校教育法により京都薬科大学認可
- 薬学部薬学科（6年制）の単科大学
- 学部学生数 2236人（2020年5月1日現在）
- 専任教員 111名（2020年5月1日現在）
- 建学の精神 愛学躬行 *Philosophia et Praktikos*

コロナ禍における京都薬科大学の対応

○ 前期

- 原則オンデマンド授業でビデオ配信（一部対面で補講あり）
- 動画URL,資料等はLMS（manaba）にて配信
- 体育実技、実習等は6月以降順次再開
- 8月に対面での試験を予定→Web試験に変更

○ 後期

- 講義形式の授業は引き続きオンデマンド授業
- 体育実技、実習等は1グループあたりの人数を減らして実施
- 10月より必修科目の部分的対面講義を実施（各講義4回程度）
- 1月に対面での試験実施（追試験、特別試験も実施）

コロナ禍における京都薬科大学の対応

○ 原則として動画配信

- 教室での録画
- PowerPoint, Teams等による動画作成

○ リアルタイムでの授業実施：限定的

- 1年生担当の基礎演習（隔週開講、一部対面実施、ハイブリッド実施もあり）

今日のフォーカス：オンデマンド講義でのLMS使用

- 受講生：10人～200人
 - 授業デザインに目配りすることと、個々の学生に向き合うという相反する要請を、オンデマンド講義という「必然的に遅延する」コミュニケーションによってどのように実現するか？
- LMSは教室という「場」の不在を補う不可欠のツール

オンライン授業におけるLMS
目的と方法を整理する

担当授業一覧

必修科目

- 基礎演習（1年生前期 科目責任者 1グループ8-12名）
- 医療の担い手としての心がまえA（1年生後期 4回）

選択科目

- フランス語と文化（1年生前期/後期 約30名）
- フランス語2（2年生前期/後期 約30名）
- 哲学倫理学（1年生前期 約200名）
- 人間学（2年生前期 約100名）
- 科学史（2年生後期 約15名）
- 文化論A（1年生後期 約60名）

「双方向的な学び」の重視

- 「大学で（薬学部で）なぜ〇〇を学ぶのか」を説明しつつ、かつ**学生が授業に能動的に参加できる仕組み**を作ることが必要

→学生の理解度や問題、疑問等をできる限り細かく把握し、それに対応することが不可欠

- 教員→学生の一方通行の授業ではなく、**教員⇄学生、学生⇄学生の関係性**の確立

- しかも今年はオンライン！オンデマンド！

これまでの取り組み

- コメントシート（A4一枚、自由記述）の使用（2013年～）
 - 半期で1授業あたり最大3000枚の紙を使用、確認と整理に労力
 - REAS（リアルタイム評価支援システム）によるウェブアンケートの使用（2014年～2017年）
 - リアルタイムに学生の意見、反応が確認・共有可能
 - 接続が煩雑かつ、学生のデータに紐づけられていない
 - 2018年4月 **manaba**の本格導入
 - 学生データとの連動により、課題の提出等もオンラインに
- 本年度の取り組みも、この延長線上に**

オンデマンド講義でのLMSの使用

LMSの使用に関する3つのポイント

1. LMSを何のために使うのか？
 - LMSを使う目的は何か？
2. LMSをどのように使うのか？
 - 授業内、授業外でどのような機能を使うのか？
 - 授業/コース内いつ使用するか？結果のフィードバックは？
3. LMSの使用によって、どのような効果が得られたのか？（リフレクション）
 - 問題点を抽出して、改善する

今年の授業を始める前に考えたこと

1. 授業は90分という思いこみを捨てる
2. オンラインでもなんとか学び合うコミュニティを作る
3. とにかくコンスタントに授業を公開する
4. でも無理をしないで乗り切る

参考：「メディア授業告示第2号」

平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件）等の一部改正（平成19年文部科学省告示第114号）

二 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているもの。

1. 授業をモジュールに分割する

○授業の構成要素（授業形態）

- 説明
- 課題作業
- 発表
- 質疑応答 etc.

○教員がしゃべり続ける授業ではなく、いくつかのまとまりごとに学生が頭と手を動かす機会を作る

○90分の対面授業≠1回のオンライン授業：同じ目標を達成するための、まったく異なる2つのアプローチ

授業の流れ



一方的な知識伝達ではなく、内化→外化→内化を繰り返すサイクルを作り、随所でLMSを活用

2. 「学び合うコミュニティ」をつくる

- オンライン授業科目内でのコミュニティづくり
→少なくとも最初は教員の関与が必要
- 場づくり（課題やコメントへのフィードバック）
→「いい発言」だけでなく「不規則発言」や「ネタ」も拾う
なんでも言える雰囲気づくり
- 「友達と、家族と議論しよう」：孤立しないように
- フィードバックを講義より手厚く：「この大学」の「この授業」を「この教員・メンバー」で行う意味を示す

3. 学びのリズムをつくる

- できるだけ規則正しくコンテンツをアップロードする
- 「○曜日の楽しみ」になるように
- 遅れた時、うっかり公開を忘れた時は素直に謝る

3つの具体例

1. 哲学倫理学

オンライン授業だからこその盛り上がりをつくる

2. 医療の担い手としての心がまえA

対面のオンデマンドの併用をデザインする

3. 科学史

文献購読をオンラインで

1. 哲学倫理学：授業の概要

- 1年生前期「人と文化」科目（選択）
- 履修者：200名
- 目的：哲学的・倫理的問題に多様な答えを見出し、かつそれらの差異・優劣を論理的に検討できるようにする
- 授業の流れ：毎回1テーマの解説→課題（思考実験）＋感想・コメント提出→フィードバック
- 課題のフィードバックによって、意見の多様性の認識、論点の明確化などを行う

授業の流れ



課題とコメントの提出期間は5日間程度。動画は学期終了まで視聴可能

1. 哲学倫理学：振り返り

- 課題とフィードバックに軸足を置くことで、学生の反応はよかった（授業評価アンケート）
- 最終試験（オンライン）の受験率、成績ともに例年並み
- コメントの数や課題の提出数は今年度が多い
- 最終回はライブ配信で試験の振り返りとリアルタイムアンケートへのコメント
→その後録画を配信：同時性の体験

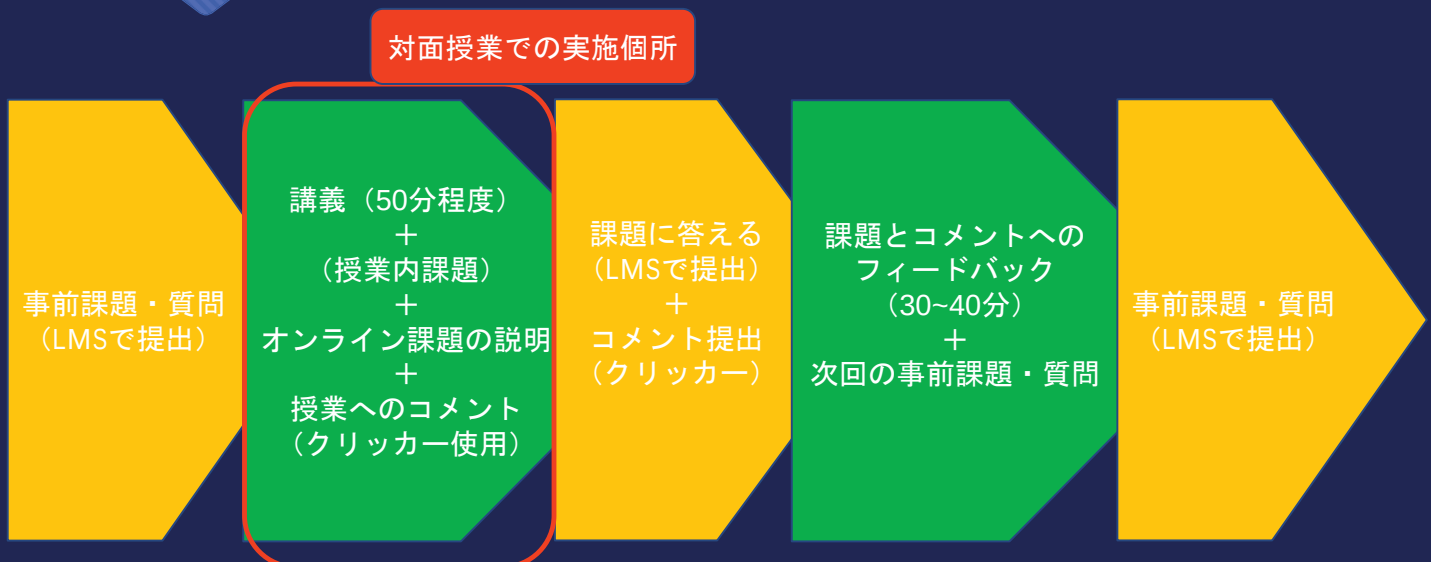
2. 担い手A：授業の概要

- 「医療の担い手としてのこころ構えA」：薬学教養科目（必修）、1年生後期
- 4回の講義を担当
- 生命倫理、医療倫理に関する内容を扱う
- 担当の1, 3回目が対面（75分）＋オンデマンド配信、2, 4回目がオンデマンド配信のみ

2. 担い手A：対面と配信のすみわけ

- 対面授業：共時性とフィードバックの即時性
 - 「対面ならではの」コンテンツ
- 配信授業：好きなときに、好きなペースで
 - 対面授業と情報格差をつくらない
- 課題の提出とフィードバックはオンラインで実施
 - 哲学倫理学でのフォーマットを応用

2. 担い手A：対面とオンラインの共存



2. 担い手A：振り返り

- 対面授業の出席率：7割程度

- 貴重な機会をできるだけ効果的に使う（「対面ならではの」コンテンツの充実）

- ⇒「場」としての大学の機能の一時的復活

- 履修生にできるだけ公平な条件で行う

- オンラインでの課題提出とフィードバック

3. 科学史：授業の概要

- 2年次「人と文化」科目（選択）

- 履修者：約15名

- 目的：科学の理論、制度、実践の形成の過程を理解し、説明できる。現在の科学が直面しているさまざまな課題を、歴史との関連において理解し、説明できる。

- 方法：毎週教科書（古川安『科学の社会史』）の1章を読み、アンケートに回答する→アンケート結果に対するフィードバックと補足説明を教員が行う

3. 科学史：アンケートの項目

1. この章の内容を200字程度で読んだことがない人に説明してみてください
2. 文中で面白いと思ったところ、関心を持ったところはどこですか。なぜそう思ったのかの理由も書いてください
3. 文中で難しかったところ、わからなかったところはどこですか

3. 科学史：振り返り

- 文献購読型の反転授業のデザインをコロナ禍以前より計画→オンラインへのスムーズな移行
 - オンライン化の収穫
 - 「読んで答える」ことの徹底
 - 回答の質、量の向上
 - フィードバックに際して教員も十分な調査が可能
- 「文献購読」という「地味」で「伝統的」な形式こそオンライン授業が有効

まとめ

- フィードバックの重要性：学び合うコミュニティを作る
 - 他の大学でなく、なぜこの大学で学ぶのか？
- 学生の人生にとってプラスとなる経験として
 - 「失われた一年」ではなく「新たな経験の一年」に
- コロナ禍以後をみすえて
 - オンライン授業の成果と課題をどう受け止めるか？
- 個人の頑張りに依存せず、制度的な取り組み、支援を

突然降って湧いた遠隔授業の取り組み

第26回FDフォーラム

第8分科会 ICTを活用した
遠隔授業について考える

2021年2月28日

京都光華女子大学 キャリア形成学部

阿部 一晴

1

自己紹介

阿部 一晴(あべ いっせい)

京都光華女子大学 キャリア形成学部

担当科目: ビジネスマネジメント原論 金融ビジネス 経営情報
企業の社会的責任 ロジスティクス 暮らしのなかの経済学 他

研究領域: AI・IoTなど情報通信技術の経営・ビジネス領域への応用、様々な業種
における企業等の特徴的な競争戦略・マーケティング等の事例研究
環境政策分野における情報通信技術の活用

経済産業省情報処理技術者 ITストラテジスト・プロジェクトマネージャ
上級システムアドミニストレータ・アプリケーションエンジニア

日本経営学会・経営情報学会・行動経済学会・情報処理学会
情報システム学会・教育システム情報学会・情報コミュニケーション学会
プロジェクトマネジメント学会・日本ITストラテジスト協会 会員

メール: i_abe@koka.ac.jp

京都光華女子大学

1940年 光華高等女学校
として設立

真宗大谷派（東本願寺）
宗門校

「仏教精神に基づく
女子教育の場の実現」が
建学の精神

幼稚園・小学校・中学校
高等学校・短期大学を併設

健康科学部

健康栄養学科

看護学科

医療福祉学科

心理学科

こども教育学部

こども教育学科

キャリア形成学部

キャリア形成学科

短期大学部

ライフデザイン学科

2020年度授業オンライン化の経緯

- ▶ 3月26日
オリエンテーション中止
前期授業開始日変更(4月6日(月)→4月20日(月))
- ▶ 4月3日
4月20日～ オンライン授業(遠隔教育)
5月11日～ 対面授業
- ▶ 4月24日
前期中 すべてオンライン授業(遠隔教育)
- ▶ 8月29日
9月21日～ 教務委員会承認科目のみ 対面授業
それ以外 後期中 オンライン授業(遠隔教育)
前期・後期とも定期試験期間の期末試験はなし

【在学生の方へ】2020年度オリエンテーション

https://www.koka.ac.jp/news/9188/

京都光華女子大学
京都光華女子大学大学院/京都光華女子大学短期大学部

受験生の方 学科・専攻 MENU

カテゴリ

入試
メディア・プレスリリース
お知らせ
レポート

年度別

2021年
2020年
2019年
2018年
2017年
2016年
2015年
2014年

2020.03.26

【在学生の方へ】2020年度オリエンテーション、授業開始日等について

ツイート いいね10 LINEで送る

資料請求
オープンキャンパス

在学生の皆様

本学では、新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、オリエンテーションや授業開始日について、慎重に協議を行ってまいりました。

その結果、在学生の皆様、および、教職員の健康と安全の確保とともに、感染拡大の機会縮小の観点から、当初の日程を変更し下記の通りとさせていただきますので、何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

◆オリエンテーション：原則中止とします。時間割や履修登録に関する資料（専門教育ガイダンスで配布する予定だった資料）については、4月4日（土）正午頃に本学ホームページにて公開予定ですので、各日で履修登録を行ってください。（公開のタイミングは光華naviにて連絡します。）【履修登録期間は4月8日（水）～22日（水）です】

但し、以下については4月17日（金）に実施します。開催時間・場所については、近日中にHPおよび光華naviでお知らせします。

- ・専門教育ガイダンス（医療福祉学科社会福祉専攻2～4年生）
- ・公務員試験のための履修科目等の説明会（こども教育学科は学校教育コースの希望者のみ）

メール - 阿部 一晴 - Outlook - 個人 - Microsoft Edge

https://outlook.office.com/mail/deeplink?popoutv2=1&version=20210215002.04

全員に返信 削除 迷惑メール 受信拒否

2020年度前期授業について

このメッセージは「重要度 - 高」で送信されました。

学生サポートセンター 修学担当
2020/04/03 (金) 18:27
Cc: 高見 茂

教職員各位

2020年4月3日
学長 高見 茂

2020年度前期授業について

新型コロナウイルス感染症感染拡大の現状に鑑み、前期授業について下記のように変更することにいたします。教職員の皆様には、遠隔教育の準備など多大なご負担をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

- 1) 授業開始日の4月20日（月）から5月10日（日）まで対面授業は行わず、遠隔教育を実施してください。
- 2) 対面授業の開始は、5月11日（月）以降とします。ただし、感染拡大の状況によってはさらに延期する場合があります。
- 3) 遠隔教育ができない授業については、5月11日（月）以降に休講分を補講してください。
- 4) 4月15日（水）・16日（木）の新入生オリエンテーションは中止いたします。詳細は学生部長から関係者に連絡いたします。

* 上記については、4月6日（月）に本学ホームページにて周知する予定です。
* 遠隔授業については感染拡大防止のための授業支援チームより後日お知らせを発信いたします。

以上



7

フルeラーニング授業の実績

- ▶ 個人的興味
- ▶ 取組や具体的成果報告の増加
- ▶ 時間割設定の困難
(専攻時間割と学科時間割 資格必修科目)
- ▶ サイバーキャンパス整備事業採択
- ▶ 現代GP・学生支援GP等競争的補助金事業採択
- ▶ 大学設置基準変更にとまなう学則の変更

2008年度からeラーニングのみによる授業開始（2科目）→

2016年度（8科目）

2018年度（4科目）

突然のことだったが、私自身は経験があったので不安はなかった
周囲の教員（おそらくeラーニング経験者は少ない）がパニックや暴動を起こさなかったことの方が不思議だった

8

京都光華女子大学におけるeラーニング授業 (2016年度)

eラーニングのみで単位取得可能な科目 (VOD)

▶ 学内正課カリキュラム

- コンピュータ基礎
- ネットワーク基礎
- ビジネスソリューション
- eビジネス/eコマース



▶ 大学コンソーシアム京都単位互換授業 (e京都ラーニング)

- コンピューティングファundamentals
- リビングオンライン
- 経営情報論
- eビジネス論



2020年度時間割 (講義科目・演習科目)

京都光華女子大学		京都光華女子大学	
前期	後期	前期	後期
1月	2月	1月	2月
3月	4月	3月	4月
5月	6月	5月	6月
7月	8月	7月	8月
9月	10月	9月	10月
11月	12月	11月	12月
13月	14月	13月	14月
15月	16月	15月	16月
17月	18月	17月	18月
19月	20月	19月	20月
21月	22月	21月	22月
23月	24月	23月	24月
25月	26月	25月	26月
27月	28月	27月	28月
29月	30月	29月	30月
31月	32月	31月	32月

(前期)

くらしのなかの経済学 a ビジネスマネジメント原論
ロジスティクス 企業の社会的責任 実践英語 I b
発展ゼミ I (3年生) 発展ゼミ III (4年生)

(後期)

くらしのなかの経済学 b 経営情報 金融ビジネス
発展ゼミ II (3年生) 発展ゼミ IV (4年生)

オンライン授業（遠隔教育）の提供方法

- ▶ 講義科目
フルeラーニング授業の経験があった
当時の使用機材等（コンテンツ制作・オーサリング）
があった
→ 以前と同様のVOD形式で提供する
（どう配信するか？）
- ▶ 演習科目（ゼミ）
リアルタイムの必要性
単発のオンライン授業ではなく
もう少し工夫がしたかった
コラボレーション
様々なアウトプットの蓄積
→ Microsoft Teamsの活用

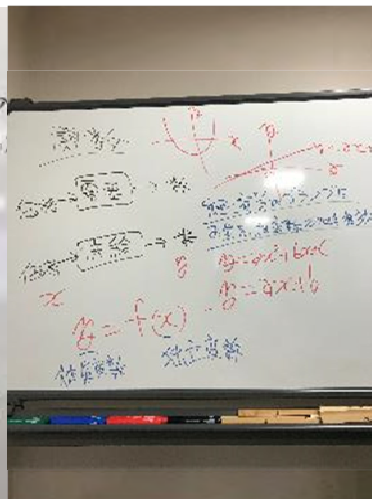
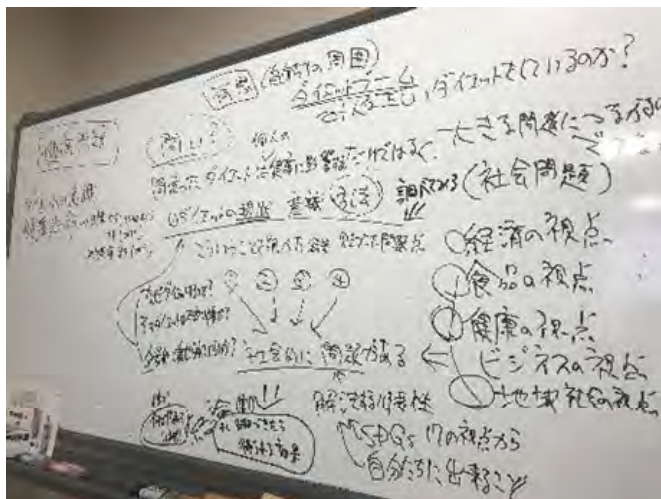


ビデオ会議
フォーラムを併用



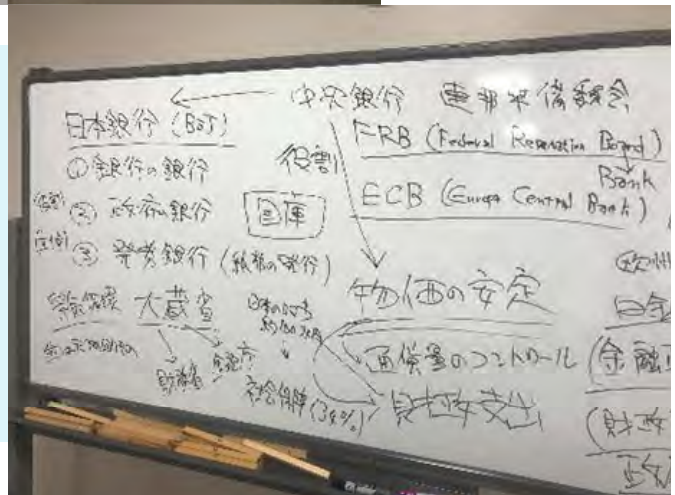


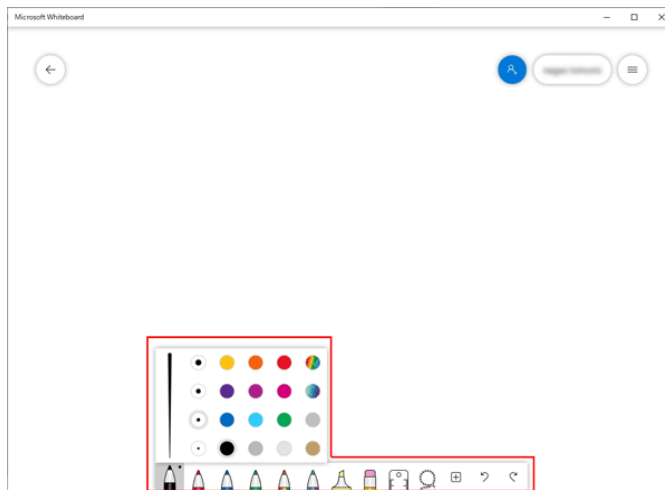
13



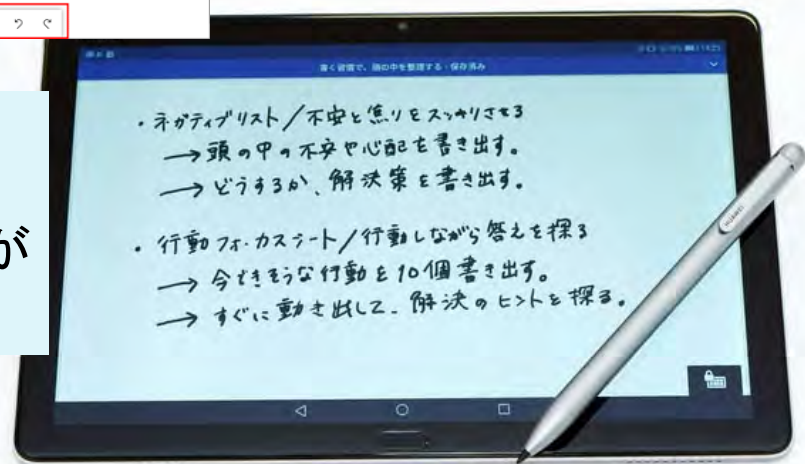
私のゼミでの必需品(笑)

講義・ディスカッション
しながらどんどん書き込む
→「ホワイトボードがない
ゼミなんて……」





オンラインの
ホワイトボード機能
いろいろ試してみたが
どうもしっくりこない



15

最終手段 自宅にホワイトボード設置
→「寝室がおしゃれじゃない」(家庭内の揉め事に(笑))



Teamsによるゼミ

- ▶ Teamsは企業でのビジネスユースを想定
様々なコラボレーション機能が豊富
スマホにもネイティブ対応
使っているうちにどんどん機能強化
→電子会議室を核にゼミでの様々な学びに適應
学生自身が新しい使い方を工夫
- ▶ 4年生は昨年度1年間教室で顔を合わせて受講
人間関係ができている
→オンラインでも盛り上がる（スタンプ・つつこみ）
- ▶ 3年生は全員が一堂に顔を合わせたことがない
→他人行儀が抜けきらない なかなか盛り上がらない

既に人間関係が出来ているメンバでのオンラインゼミに
対して大きな可能性を感じる（リアル+オンライン）

17

講義科目に対する基本的考え

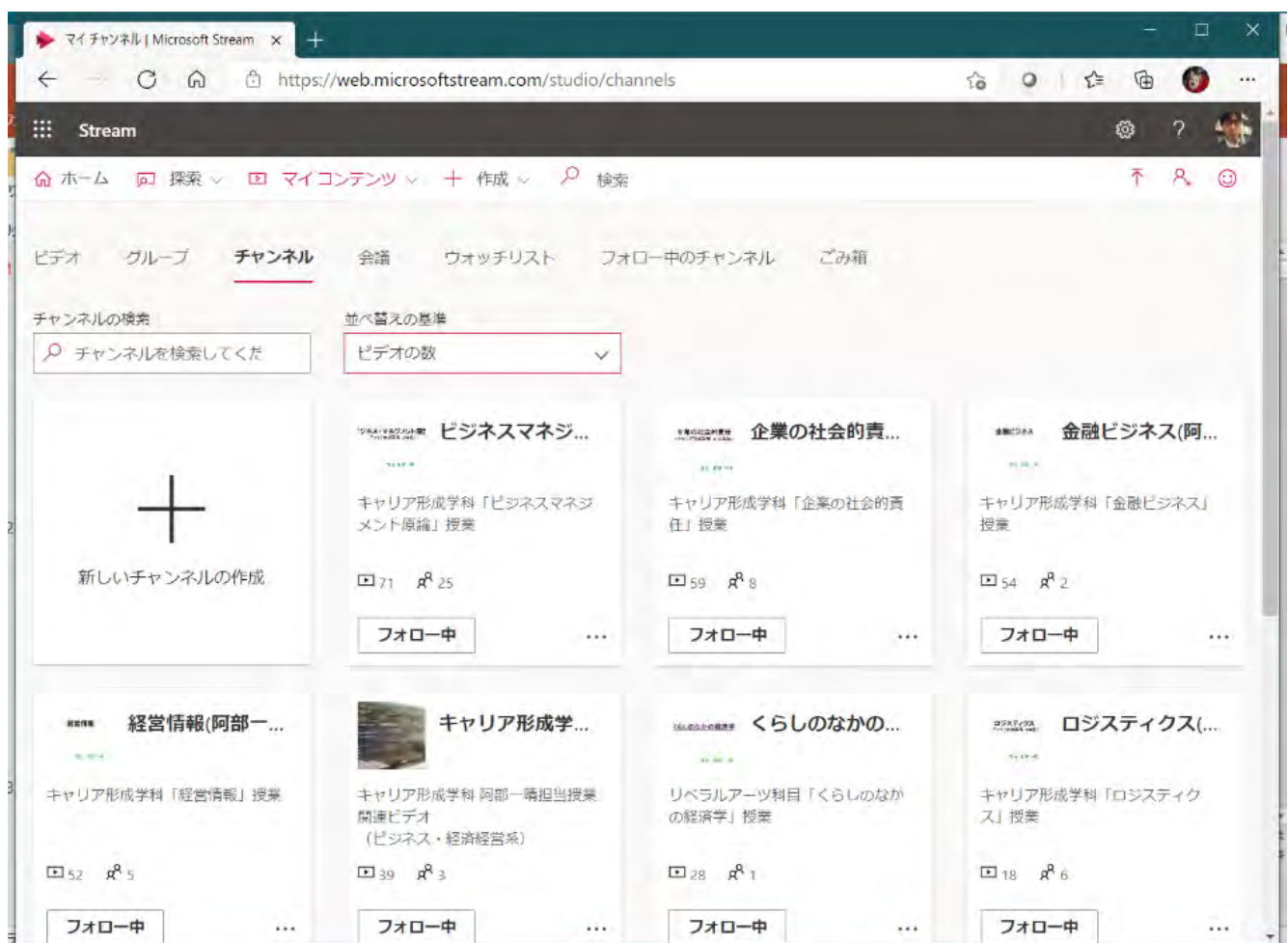
- ▶ リアルタイムにはしなくなかった（その場限り感）
- ▶ 以前使用していたVODサーバは既に廃棄されていた
- ▶ 学生の様々な環境に対応させたい
- ▶ ファイル容量の問題
- ▶ ダウンロードではなくストリーミングで配信したい
- **Microsoft Streamの活用**
Office365アカウントでシングルサインオン
スマホでも視聴できる
環境に合わせて配信を最適化している（多分）
サービスが停止することはないだろう（多分）
- + **LMS的なもの**（光華navi（GAKUEN/Universal Passport））

18

VOD（Stream・光華navi）による講義

- ▶ 科目ごとに「チャンネル」を用意
- ▶ 一回の授業を3～5本のビデオで構成
- ▶ 授業ビデオはPowerPointと動画を同期
- ▶ 講師の顔を見せる
- ▶ ビデオ視聴後に課題に取り組む
 - 期限は基本的に一週間（ただし柔軟に対応）
 - フォーラム（掲示板）への質問・コメント投稿
講師からも返信を投稿
 - 教科書の復習と要約
 - レポート課題（正解があるものではなく考えさせるもの）
 - 講義ノートの提出
講師からフィードバック

19



金融ビジネス(阿部一晴) | Microsoft Stream

https://web.microsoftstream.com/channel/cf9482b0-fbe1-4995-8503-6357b40f8404

Stream

ホーム 探索 マイコンテンツ 作成 検索

金融ビジネス第15回(1月22日) No.3
14 0 0 1/21/2021
金融ビジネス第15回授業ビデオ (3/3)

金融ビジネス第15回(1月22日) No.2
8 0 0 1/21/2021
金融ビジネス第15回授業ビデオ (2/3)

金融ビジネス第15回(1月22日) No.1
6 0 0 1/21/2021
金融ビジネス第15回授業ビデオ (1/3)

金融ビジネス第14回(1月15日) No.3
19 0 0 1/14/2021
金融ビジネス第14回授業ビデオ (3/3)

金融ビジネス第14回(1月15日) No.2
10 0 0 1/14/2021
金融ビジネス第14回授業ビデオ (2/3)

金融ビジネス第14回(1月15日) No.1
8 0 0 1/14/2021
金融ビジネス第14回授業ビデオ (1/3)

金融ビジネス第15回(1月22日) | Microsoft Stream

https://web.microsoftstream.com/video/3272788e-bc1d-48e9-9a3f-fa12d03ea79c...

Stream

ホーム 探索 マイコンテンツ 作成 検索

背景

これまでの金融政策の常識が通用しなくなっている

「ゼロ金利」「量的緩和」「時間軸政策」

1990年代後半、賃金と物価が持続的に下落するデフレが始まると、瞬間に政策金利はゼロまで引き下げられ、日銀はいわゆるゼロ金利制約(中央銀行の金融政策による景気刺激の効果が発揮されにくくなる状況)に直面した。

当時の金融の世界の常識では、「政策金利はマイナスにできない」との理解が一般的であったため、日銀は政策目標(日銀が操作する対象)を日銀当座預金残高に変更し、その残高を増加させる、いわゆる量的緩和策を導入した。

トランスクリプト 対話機能

トランスクリプトの検索

03:28 どんどんどんどん日銀が持っている現金を一般の銀行に出して言って、ですねそうすることによって、お金を

03:36 たくさん街中に出回るようにするっていうことにまあ、次のサポートして取り組んだまあ、それでも改善し

03:44 なかったというのが実情ということでした

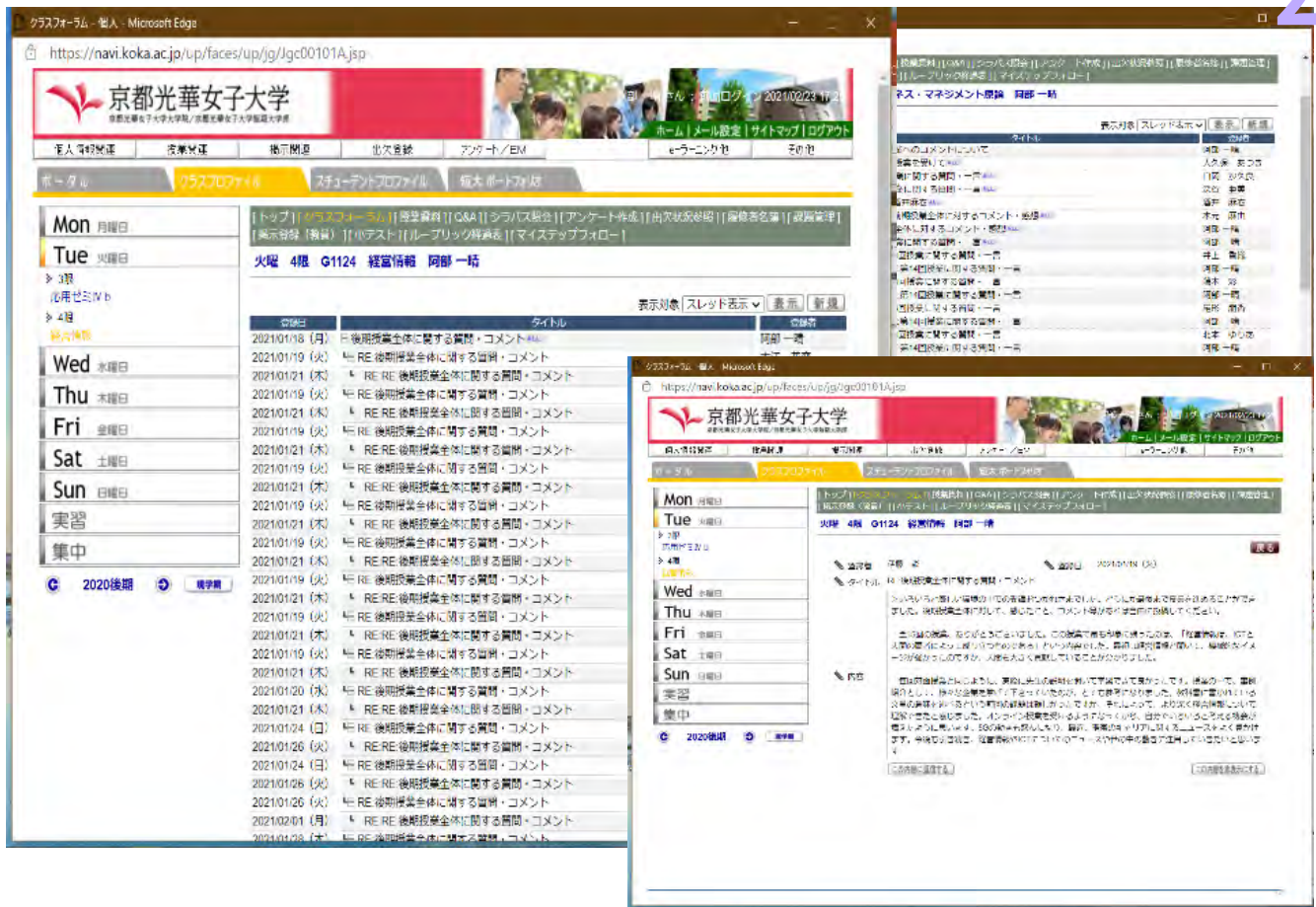
03:49 まあ、そしてこれまではあの基本的には色々な金融政策っていうのは

金融ビジネス(阿部一晴) チャンネルの詳細

金融ビジネス第15回(1月22日) No.1
1/21/2021 に 阿部 一晴 が公開しました 会社 7 0 0
金融ビジネス第15回授業ビデオ (1/3)

金融ビジネス第15回(1月22日) No.3
14 0 0 1/21/2021
金融ビジネス第15回授業ビデオ (3/3)

金融ビジネス第15回(1月22日) No.2
8 0 0 1/21/2021
金融ビジネス第15回授業ビデオ (2/3)



クラスフォーラム

23

宿題

1. 教科書「金融の基礎」の第26章1999年以降の金融政策（授業で飛ばした箇所は省いても良い）をよく読み、主題を要約（書かれていることの中で重要だと思われることを書き抜く）し、全体をまとめる
2. 日本銀行が景気対策として積極的に様々な政策を次々と実行しているが、残念ながら景気は良くなっていない
なぜ日本の景気は回復しないのか、自分の考えを出来るだけ詳しく述べる（新型コロナウイルス感染症の影響は除く）
3. 講義ノート（今回の授業で理解できたことを中心にまとめる）

※手書きノートの場合、写メをメールで提出しても良い

基本的にWordで作成し光華navi（課題提出）で提出する
Wordが使用できない場合、手書きの写メやスマホのテキスト等こういった形式でも認める（何か要望等があれば個別に阿部にメール等で相談のこと）

表紙は不要、先頭に学生証番号・氏名を記載すること

締切：1月21日（木） 23:59

24

京都光華女子大学

火曜 4月 11日 ビジネス・マネジメント専攻 阿部 一樹

授業グループ	日	時間	科目	担当	出席	欠席	出席率
7月21日 (火)	2020/07/21	00:00-2020/07/21	(金)	23:59	11人	0人	100%
7月14日 (火)	2020/07/14	00:00-2020/07/14	(金)	23:59	11人	0人	100%
7月7日 (火)	2020/07/07	00:00-2020/07/07	(金)	23:59	11人	0人	100%
6月30日 (火)	2020/06/30	00:00-2020/06/30	(金)	23:59	11人	0人	100%
6月23日 (火)	2020/06/23	00:00-2020/06/23	(金)	23:59	11人	0人	100%
6月16日 (火)	2020/06/16	00:00-2020/06/16	(金)	23:59	11人	0人	100%
6月9日 (火)	2020/06/09	00:00-2020/06/09	(金)	23:59	11人	0人	100%
6月2日 (火)	2020/06/02	00:00-2020/06/02	(金)	23:59	11人	0人	100%
5月26日 (火)	2020/05/26	00:00-2020/05/26	(金)	23:59	11人	0人	100%
5月19日 (火)	2020/05/19	00:00-2020/05/19	(金)	23:59	11人	0人	100%
5月12日 (火)	2020/05/12	00:00-2020/05/12	(金)	23:59	11人	0人	100%
5月5日 (火)	2020/05/05	00:00-2020/05/05	(金)	23:59	11人	0人	100%

レポート課題

25

第4回 経営戦略

現在の経営環境

- ・デジタル化 (デジタルトランスフォーメーション)
- ・グローバル化 (グローバル化)
- ・環境問題 (環境問題)
- ・人口減少 (人口減少)
- ・高齢化 (高齢化)
- ・少子化 (少子化)
- ・労働力不足 (労働力不足)
- ・競争激化 (競争激化)
- ・技術革新 (技術革新)
- ・規制緩和 (規制緩和)
- ・市場開放 (市場開放)
- ・国際化 (国際化)
- ・多文化化 (多文化化)
- ・多国籍化 (多国籍化)
- ・多言語化 (多言語化)
- ・多国籍企業 (多国籍企業)
- ・多国籍市場 (多国籍市場)
- ・多国籍競争 (多国籍競争)
- ・多国籍戦略 (多国籍戦略)
- ・多国籍経営 (多国籍経営)
- ・多国籍管理 (多国籍管理)
- ・多国籍会計 (多国籍会計)
- ・多国籍法 (多国籍法)
- ・多国籍税 (多国籍税)
- ・多国籍労働 (多国籍労働)
- ・多国籍文化 (多国籍文化)
- ・多国籍価値観 (多国籍価値観)
- ・多国籍倫理 (多国籍倫理)
- ・多国籍責任 (多国籍責任)
- ・多国籍権利 (多国籍権利)
- ・多国籍義務 (多国籍義務)
- ・多国籍自由 (多国籍自由)
- ・多国籍平等 (多国籍平等)
- ・多国籍正義 (多国籍正義)
- ・多国籍平和 (多国籍平和)
- ・多国籍安全 (多国籍安全)
- ・多国籍健康 (多国籍健康)
- ・多国籍福祉 (多国籍福祉)
- ・多国籍幸福 (多国籍幸福)
- ・多国籍繁栄 (多国籍繁栄)
- ・多国籍発展 (多国籍発展)
- ・多国籍進歩 (多国籍進歩)
- ・多国籍文明 (多国籍文明)
- ・多国籍文化 (多国籍文化)
- ・多国籍価値観 (多国籍価値観)
- ・多国籍倫理 (多国籍倫理)
- ・多国籍責任 (多国籍責任)
- ・多国籍権利 (多国籍権利)
- ・多国籍義務 (多国籍義務)
- ・多国籍自由 (多国籍自由)
- ・多国籍平等 (多国籍平等)
- ・多国籍正義 (多国籍正義)
- ・多国籍平和 (多国籍平和)
- ・多国籍安全 (多国籍安全)
- ・多国籍健康 (多国籍健康)
- ・多国籍福祉 (多国籍福祉)
- ・多国籍幸福 (多国籍幸福)
- ・多国籍繁栄 (多国籍繁栄)
- ・多国籍発展 (多国籍発展)
- ・多国籍進歩 (多国籍進歩)
- ・多国籍文明 (多国籍文明)

第5回 経営戦略

現在の経営環境

- ・デジタル化 (デジタルトランスフォーメーション)
- ・グローバル化 (グローバル化)
- ・環境問題 (環境問題)
- ・人口減少 (人口減少)
- ・高齢化 (高齢化)
- ・少子化 (少子化)
- ・労働力不足 (労働力不足)
- ・競争激化 (競争激化)
- ・技術革新 (技術革新)
- ・規制緩和 (規制緩和)
- ・市場開放 (市場開放)
- ・国際化 (国際化)
- ・多文化化 (多文化化)
- ・多国籍化 (多国籍化)
- ・多言語化 (多言語化)
- ・多国籍企業 (多国籍企業)
- ・多国籍市場 (多国籍市場)
- ・多国籍競争 (多国籍競争)
- ・多国籍戦略 (多国籍戦略)
- ・多国籍経営 (多国籍経営)
- ・多国籍管理 (多国籍管理)
- ・多国籍会計 (多国籍会計)
- ・多国籍法 (多国籍法)
- ・多国籍税 (多国籍税)
- ・多国籍労働 (多国籍労働)
- ・多国籍文化 (多国籍文化)
- ・多国籍価値観 (多国籍価値観)
- ・多国籍倫理 (多国籍倫理)
- ・多国籍責任 (多国籍責任)
- ・多国籍権利 (多国籍権利)
- ・多国籍義務 (多国籍義務)
- ・多国籍自由 (多国籍自由)
- ・多国籍平等 (多国籍平等)
- ・多国籍正義 (多国籍正義)
- ・多国籍平和 (多国籍平和)
- ・多国籍安全 (多国籍安全)
- ・多国籍健康 (多国籍健康)
- ・多国籍福祉 (多国籍福祉)
- ・多国籍幸福 (多国籍幸福)
- ・多国籍繁栄 (多国籍繁栄)
- ・多国籍発展 (多国籍発展)
- ・多国籍進歩 (多国籍進歩)
- ・多国籍文明 (多国籍文明)

疑問と課題

- ▶ この授業（講義）で2単位与える根拠は？
- ▶ 対面授業に相当する教育効果がある保証は？
- ▶ ビデオ講義の適正時間は？
90分×15回 45分×30回？ 時間ではない？
- ▶ 単位制の位置づけ （1単位45時間の学習）

27

大学設置基準

（昭和三十一年十月二十二日文部省令第二十八号）

第二十一条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、**一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準**とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。

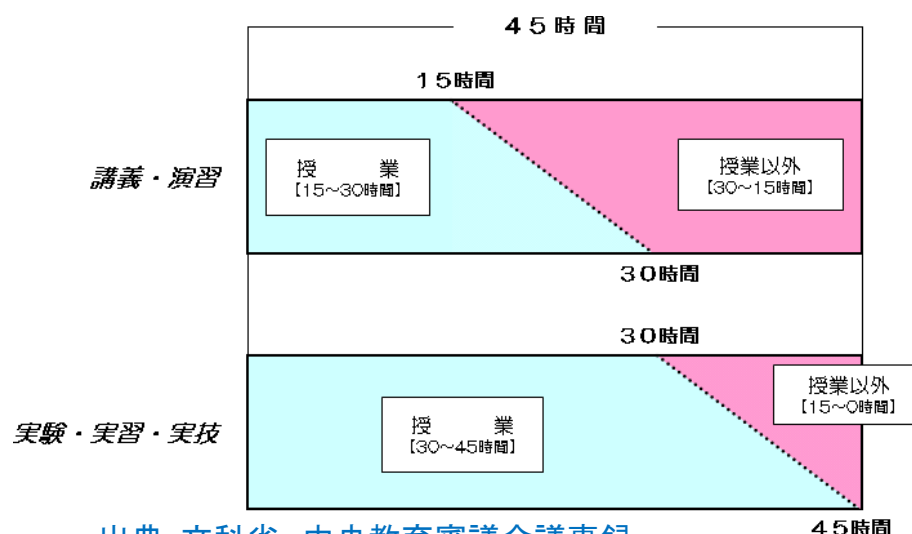
二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。

三 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。

3 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

28

- ▶ 2単位講義 (参照：大学設置基準第二十一条)
 (90分(2時間)授業
 +180分(4時間)予復習) × 15回



出典：文科省 中央教育審議会議事録

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/04121002/004/001.htm

学生の発言「授業は出ているだけでいいのに、eラーニングは授業以外にやることがたくさんあって大変」

29

まとめ (というほどではありませんが)



- ・オンライン授業は結局のところ対面の代替・補強手段でしかない？
 (少なくとも 現時点 従来型(キャンパス前提)の大学においては)
- ・そもそも教育の効果はどう測定すれば良いのか？

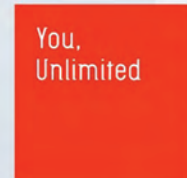
今年度のオンライン授業はうまくいった, うまくいかなかった, いずれと評価しても
 これまで当たり前と思っていた大学教育を否定することにならないか？(パンドラの箱?) 30

コンソーシアム京都 第26回FDフォーラム 第8分科会

コロナ禍におけるオンライン授業の導入とその
課題：ある学科の取り組みをケーススタディと
して考えてみる

2021年2月28日

龍谷大学国際学部 瀧本 真人



このセッションで考えたいこと



- コロナ禍におけるオンライン授業へのシフトを「学生は」どう受け取ったのか。
- オンライン授業は「学生にとって」よかったのか、よくなかったのか。
- 今後の授業で(対面にせよ、オンラインにせよ)気を付けるべきことはあるのか。

A大学B学部C学科における背景(1)



【A大学の動き】

- 3/11 4/1実施予定の入学式中止決定(危機対策本部会議)
- 3/22 「**対面での授業**」は**4/21開始**とするが、学年暦上の授業開始は延期なし、との決定
- 3/25 対面授業開始までに、4/7～4/21の2週間分の授業時間を確保する必要がある旨、大学より教員に通知。(①提示する課題等、②教室での授業開始後に提示する課題等、③補講での「補講授業」、のいずれかによる。)
- 4/6 前期授業は**すべてオンラインで授業を実施**することに決定。
(5/11までには完全にオンラインに移行するが、それまでは継続して課題や補講等で対応可。)
- 4/7 **前期授業開始、「オンライン授業推進委員会」設置**
- 4/20 オンライン授業に伴うノートPC等のレンタル受付開始

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 3

A大学B学部C学科における背景(2)



【B学部(およびC学科)における対応】

- 3/25 学部に「**オンライン授業検討タスクフォース**」の設置を決定。学生への情報提供の必要性を鑑み、様々な取り組みを即時開始。
- 4/6 「**オンライン授業のための「自宅」のオンライン環境調査**」(LMSを用いて全学部生に緊急実施)
- (4/7 前期授業開始)
- 4/14～ C学科では授業開始後第2週目までにほぼすべての学科提供科目がオンラインへ移行完了。
(同期双方向、同期一方向、(オンディマンド)の混在。)

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 4

自宅のインフラ、テクニカルな面

インターネットを使えるコンピュータか、タブレット端末(スマホは除く)が自宅にありますか？

- 自分専用がある 87%(338/387)
- 共有だが自由に使える 9% (34/387)
- 共通で自由に使えない 2% (8/387)
- 自宅にはない 2% (7/387)

自宅のインターネット環境は通信容量に制限がありますか？

- 制限はない 72%(278/387)
- 制限があり通信速度制限がかかる 22% (87/387)
- 制限があり上限をこえると使えなくなる 5% (19/387)
- インターネットが使えない 1% (3/387)

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 5

新入生に特有の問題

新入生

インフラの問題以外の問題が表面化

- 人的ネットワークの欠如
- 情報の入手方法じたいがわからない
- 大学のシステム利用の不慣れ

→ 学部・学科独自の取り組み=LMSの活用

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 6

- a. 大学・学部からの連絡、シラバス、履修登録、時間割、成績関係、アンケートなど ⇒ 「ポータル」
- b. LMS ⇒ **manaba**
- c. メール ⇒ **Gmail** (学生:studentID@mail.xxxxx.ac.jp)
- d. 遠隔授業・ビデオ会議 ⇒ **GoogleハンガアウトMeet**
- e. データ保存・共同編集等 ⇒ **Google Drive**
- f. ソフトウェア ⇒ **Microsoft Office365** (ただし、Teams は教職員のみ)

【学部独自の対応】

- **Zoom**のサブスクリプション(専任教員全員分購入)

オンライン授業開始後の課題

6/1～「オンライン授業における学習状況調査」(LMS)

「オンライン授業として受講しにくいと感じる科目はありますか。
※科目名・曜日・講時を記載してください。」

- 特定の科目に不満が集中する傾向 → 個別に対応
- 課題の量: 対面より多くなったとの回答がやや多い
- 理解度: 高まったという学生と、そうでない学生が混在
- 学修時間: 変わらない～やや多くなった
- 受けにくい授業: 「グループワークがしにくい」
- 授業レベルではない取り組みの必要性(新入生)

「受けやすかった」授業は？



「前期の授業を振り返って：グッドプラクティスを教えてください」(7/25～8/17)

「この授業のこういった取り組み・工夫はよかった」と思う授業を1つ以上5つ以内でお答えください。」(後期の準備として実施)

【受講生 50-100】

教員a 同期双方向(Zoom)

録画、スライドを事前upload、チャットによる質問、zoomアンケートの活用

教員b 同期双方向(Zoom)

録画、チャットによる質問、海外からのゲストレクチャラーの参加

「受けやすかった」授業は？



教員c 同期双方向(Zoom)

グループディスカッション、チャットによる質問、復習用資料アップ

【受講生 100+】

教員d 同期一方向(Google Meetストリーミング)

録画、スライド事前upload、respon 使用による参加型授業、zoomでの質問タイム設定

教員e 同期双方向(Google Meet → Zoom)

グループワーク(意見交換)、チャットによる質問

教員f 同期双方向(Zoom)

録画、レジュメ事前upload、チャットによる質問

「受けやすかった」授業は？(自由記述)



「対面授業ではいつも後列に座りがちだったのがオンライン授業はそれが無いので質問などが積極的にしやすかった」

「大人数の授業で少しでも疑問に思ったことをチャットで聞きやすい環境にあったのがよかった。これまで対面授業では一回で理解できないことが多かったけど見返せることによって自分で授業の理解が今までよりもできるようになって少し自信がついた」

「課題の量に関しても、多いという人を良く見かけたが、学校が無くていつもより時間がとりやすいという事を考えると私個人としては適切な量だったと感じます」

「受けやすかった」授業は？(自由記述)



「課題に関しては量が多く少し大変な部分もあったが、対面でもXX[所属学科]は課題が多いような気もするので特に減らすべきだとは思わなかった」

「YouTube等の動画等の一方向性の授業は、見直せる点では効果的なのですが質問の答えがすぐに帰ってこない点でデメリットが有るので個人的には苦手です」

「動画を載せているだけの授業(XX[所属学科]の授業じゃない)は後期も学校行く必要ないんじゃないかと思った」

「受けやすい」授業とは、

- 事前に準備ができる
- 質問ができる(しやすい)
- 参加型(アクティブラーニング)
- 録画で見なおせる

ただし、グループワーク(ブレイクアウト・ルーム)については、多様な意見がみられた

→ 設計、ファシリテーション力の必要性？

後期授業開始前(8月末)の希望

あなたは、後期において、オンラインでの授業、対面での授業のどちらを希望しますか。

	1回生		2回生		3回生		4回生+		合計	
オンライン	9	15%	18	38%	24	53%	10	26%	61	32%
対面	17	29%	16	33%	3	7%	10	26%	46	24%
併用	28	47%	11	23%	13	29%	12	32%	64	34%
どちらでも	5	8%	3	6%	5	11%	6	16%	19	10%
	59		48		45		38		190	

- 組織的取り組み(授業単位を超えた)の必要性
- 授業以外の課題 (e.g. 必修の留学、インターンシップ、実習など)
- 「復習」「見直し」のための「録画」有効性(後期には、基本的に全科目の録画へのアクセスを担保。)
- 対面での授業の内容の再検討